

# 12月「Kindererziehung」 アントニア・シュルト

1. 小林市で4年間生活をしてきて、日本とドイツの様々な分野の違いに気づいたり、たまにコラムの記事にしたりしてきました。最初の頃はきっと大きな違いが多かっただろう。例えば、「運転する側は右ではなくて、左です」とか「白い軽トラが非常に多くあります」とか「小学生はみんな赤い帽子をかぶっています」などなど。





2.時間が経つにつれて、大きな違いが普通になって、自然に受け入れられました。慣れると大きな文化的な違いに引っかからず、生活できると思います。そうなる微妙な違い、というかよく見ないと気付かない違いに気づく余裕ができました。

今回は最近気づいた違いを紹介したいと思います。気づいたと言っても、本当は気づかされました。同僚にドイツの子供の休みの過ごし方について聞かれました。自分の経験のなかから答えてみたら、「Ferien auf dem Reiterhof」というのが出ました。同僚に説明しようとした時に、これがもしかしたら日本にないアクティビティだと感じました。翻訳すると「乗馬体験ができる牧場でのホリデー」となります。それはどういう意味かということ子供が休みの間牧場で馬に乗ったり、お世話をしたり、他の子供達と牧場の毎日の出来事を楽しみます。それは保護者と一緒でしょう？と聞かれると「まあ、そのパターンもありますが、保護者なしというのも多いと思います。」「じゃ、何歳からですか？」そこはよく分からなかったなので、調べてみました。ほとんどのところでは、小学生から大丈夫ですと書かれていました。



3.その年齢で親から離れることは日本であまりないと言われた瞬間、そこはドイツの子育てとの違いだときづかされました。日本で子供が親と同じ部屋で寝るとか、友達の家にお泊りしに行くのも珍しいとは前から知っていましたが、そこに子育ての基本的な違いが隠れているとは気づいていなかったです。ドイツでは、赤ちゃんでも自分の部屋で寝させるのが普通です。小学生になってもまだ親と一緒に寝ているとしたら、同級生に笑われると思います。その育て方が正しいかどうか私には分からないことですが、ドイツで小さい頃から親から離れることに慣らせるのが大事にされていると言えるかもしれません。自立させたいという気持ちも入っていると思います。元東ドイツの場合、社会主義経済の中お母さんになっても生産に戻れるように子供を小さい頃から保育所に預けることが多かったという歴史的な背景もあります。なぜ別の部屋で寝させるかという、ドイツの家はだいたい広いので、みんなが一緒に寝る必要はまずないというのと、親と一緒に寝ると寝る時間が遅くなるため子供の成長に欠かせない睡眠を十分とれないという心配もあると思います。もっと調べたら、きっとより納得できる答えが出てくるとと思いますが、自分の子供の頃を思い出してみるとそういう育て方によって特に傷がついたとは感じていません。それに、一人での乗馬体験できる牧場のホリデーがとても楽しかったです。